

News Release

 Prince
Hotels & Resorts

でかける人を、ほほえむ人へ。
西武グループ

株式会社プリンスホテル 安全報告書 2011

(2010年度分)



昨シーズンはスキーが日本に伝えられて100周年という記念すべき冬でもありました。日本の美しい山々と雪に恵まれ、スキーは大きく発展し、日本独自の豊かな文化と産業を形成し、索道施設に関しましては大きな進歩を遂げて今日に至ってまいりました。当社としては特に施設整備に大きな重点をおき、安全を最優先に点検整備を実施、強化してまいりました結果、2010～2011シーズンにおきましても無事終了しましたことを報告させていただきます。ひとえに安全安心はお客さまのご理解と関係当局のご指導そして当社スタッフの意識の高さによるものと信じております。

本年におきましては大規模な投資の計画はありませんが、夏期間においても例年どおり当社の技術者による「きめ細やかな整備」を実施し、来るシーズンにおいても、たくさんの方々やご家族、お子さまが楽しい思い出を作るグレンデを提供し、「ほほえんで」いただけるよう邁進していく所存でございます。

最後になりますが、このたびの東日本大震災により被害を受けられた方やその家族、関係者の皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げるとともに、西武グループのグループ理念でもある「地域・社会の発展、環境の保全に貢献し、安全で快適なサービス」を提供してまいりますので変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2011年8月



株式会社プリンスホテル
取締役社長
小林正則

目 次

■ 安全方針および安全方針重点施策	1 P
■ 安全確保のための管理実績	
1. 安全管理体制	2 P
2. 安全重点施策を実現化する活動	3 P
(1) 安全方針実施状況	3～4 P
(2) 社員教育の実施状況	4～5 P
(3) 会議の実施状況	5 P
3. 行政指導に対する措置の状況	6 P
(1) 国土交通省による運輸安全マネジメント評価	6 P
(2) 国土交通省による保安監査	6 P
■ 安全確保のための措置	
1. 緊急時対応訓練	6～7 P
2. 施設の運行および点検・整備	8 P
3. お客さまへのお願い	9 P
■ その他の活動	
1. お客さまとの交流	10 P
2. 環境保全のための活動	11 P
3. 2011年度営業のご案内	12 P
■ おわりに	
安全報告書に関する問い合わせ先	12 P

安全方針

索道輸送の安全を確保するための方針（安全方針）

1. お客さまの声、地域の声、お客さまの目線を大切に「安全」を基本に本事業を推進します。
2. 輸送の安全を確保するための関係法令を守ります。
3. 会社および事業所の協力の下、一致団結して輸送の安全の確保に努めます。
4. 安全管理体制の不断の確認を履行し、情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
5. 事故・災害の発生時は、人命救助を最優先に、慎重に速やかに適切に、行動をとります。

安全方針重点施策

安全方針の項目に基づく施策をそれぞれ定め、各事業所が計画（Plan）⇒実施（Do）⇒評価（Check）⇒改善（Act）のPDCAサイクルを回してスパイラル的進展を図り、事故ゼロを目標に安全を確保しながら営業を進めてまいります。

安全確保のための管理実績

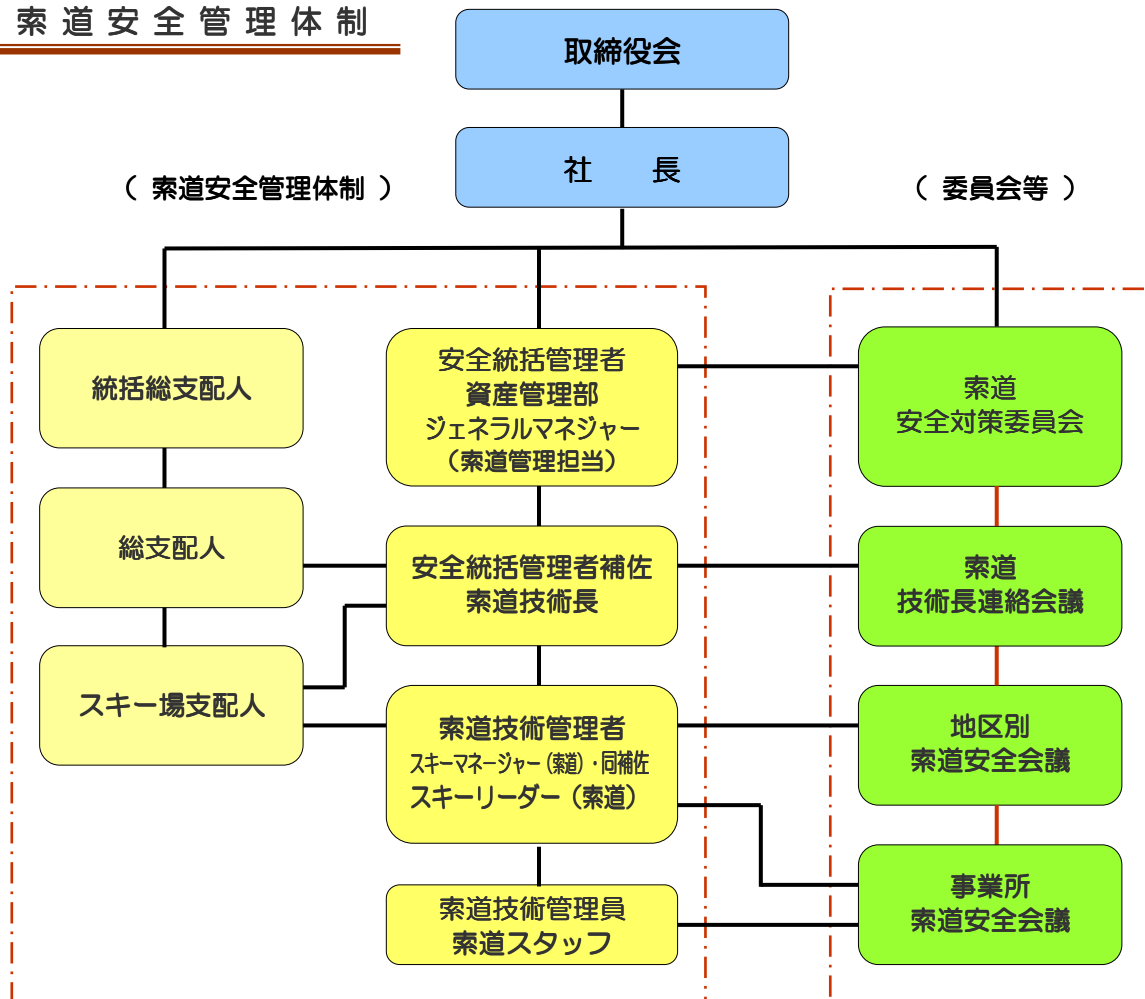
1

安全管理体制

社長をトップとする安全管理体制を構築し、各責任者の業務分担を明確にしています。当社では、全国各地にスキー場を保有しています。そこでスキー場を4地区に分け、それぞれに、索道安全統括管理者を補佐する安全統括管理者補佐を配置しています。安全統括管理者は索道安全管理規程に沿って通達文書・巡回、会議により指導を行い、スキー場の索道技術管理者は運転取扱細則や整備細則に沿って運転・点検整備を実施し「安全・安心」な索道施設を維持しています。

役 職	責 務
社 長	輸送の安全確保に関する最終的な責任を有する。
安 全 統 括 管 理 者	輸送の安全確保を最優先した輸送業務の実施を統括管理する。
安 全 統 括 管 理 者 補 佐	担当地区における、輸送の安全確保を最優先した輸送業務の実施を統括管理する。
索 道 技 術 管 理 者	輸送の安全確保に関し、索道の運行管理、索道施設の保守管理、索道係員教育訓練に責任を有する。
索 道 技 術 管 理 員	担当する索道の運行管理、索道施設の保守管理に責務を有する。

索道安全管理体制



(1) 安全方針実施状況

安全方針および安全重点施策を各事業所で推進し、輸送の安全を追及しています。全事業所から980件の実施報告がありました。
 索道安全管理体制への索道係員の理解もさらに深まり順調に活動を進めてまいりました。昨年度は、リフト乗降場および線路中でのトラブルが発生しましたが、係員や放送での案内を強化したり搬器や支柱・乗降場に掲示物を掲げ、搬器の安全バーにはシールを貼るなど対策を講じた結果、同類のトラブルをなくすことができました。2011年度も引き続き、お客さまへのご案内と現場の巡回点検をさらに強化し、トラブルを未然に防ぐ努力をしてまいります。

(方針1) お客さまの声、地域の声、お客さまの目線を大切にし「安全」を基本に本事業を推進します。

- (1) ホームページの「ご意見・ご要望」の情報、サジェッションカードを活用する。
- (2) 日頃からお客さまの立場に立って、改善が必要な項目がないかチェックする。
 - 「リフト降場付近でボーダーが立ち止まっていて危ない」との声があり、各係員へこまめに誘導するよう指導した。【お願い】スキーヤーを含め、降車したら後続者と接触を避けるため、速やかに降場付近から離れるようご協力をお願いいたします。
 - ナイター営業に切り替わる際リフレッシュ圧雪を行ない、滑走のしやすさ、怪我人の減少に努めお褒めの言葉をいただいた。（一部のスキー場で実施）
 - 「ゴンドラ搬器内のタバコの臭い、何とかならない？」との声があり「搬器内禁煙案内」と「消臭対策」を強化した。【お願い】リフト搭乗中、ゴンドラ搬器内での禁煙にご協力をお願いいたします。
 - ロープウェー山頂駅舎横の古くなったトイレを、バイオトイレに換えてサービスの向上に努めた。他・合計129件の報告がありました。

(方針2) 輸送の安全を確保するための関係法令を守ります。

- (1) 運転細則に基づき、勤務人員を適切に配置する。
- (2) 運転細則に基づき、始業点検、巡回を実施する。
- (3) 索道施設についての技能、知識を向上する。
- (4) 監督官庁に対する申請、届出書類を確実に提出する。
 - 監査部による内部監査が実施され、索道係員配置表、公休シフトを確認し適正であったことを確認した。
今後も継続していくようにとの指導があった。
 - 地震が発生したので索道を直ちに停止した。営業再開前には乗降場および線路を点検し、異常がないことを確認してから営業運転を再開した。
 - 地方運輸局主催の索道技術管理者研修会を受講した。事故防止についての教育・訓練の重要性を再認識した。
 - 索道安全管理規程の条文を一部変更したので、地方運輸局へ索道安全管理規程変更届出書を提出した。他・合計373件の報告がありました。

(方針3) 会社および事業所の協力の下、一致団結して輸送の安全確保に努めます。

- (1) 施設の整備と索道要員の確保を確実に実施する。
- (2) 常に気象情報を把握し、天候の変化に柔軟に対応する。
 - 風邪により係員に欠員が出たので、他部署より索道経験のある者を派遣してもらい、配置人員を確保した。
 - 索道安全会議を開催し、今後の整備要員の確保等について、他事業所の協力を要請した。
 - 雨天のため、夜間に冷え込んで凍結の恐れがあるので、翌日の始業点検で確認してから運転するように指示した。
 - 台風接近に伴い、各現場は天気予報に注意を払い、状況にあわせた整備作業工程を組むよう指示した。他・合計127件の報告がありました。

搬器の安全バーの両側に「このバーは終点まであげないでください」のシールを貼って、「搬器からの落下事故防止」に努めました。



(方針4) 安全管理体制の不断の確認を履行し、情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。

- (1) 日常の業務の中で安全第一を徹底する。
 - (2) 事故、ヒヤリ・ハット情報を社内で共有する。
 - (3) 他事業所の事故情報を社内に展開し、同種の事故を防止する。
 - 毎日の朝礼時に前日に作成した「危険予知のスローガン」を発表し、安全意識の向上を図った。
 - 雪崩発生の危険を回避するためお客さまに案内しリフトを停止した。翌日も安全確保のためリフトの振替え営業を行なった。
 - 緊急地震速報を携帯電話やラジオで常に情報が取れるようにして、発令された際は直ちにリフトを停止するよう指導した。
 - 作業時における「ヒヤリ・ハット」は、その日の「危険予知レポート」に記入し事故防止のために情報を共有した。
 - 地方運輸局より事故事例情報が届いたので全員に回覧し同種の事故防止を徹底した。
- 他・合計251件の報告がありました。

(方針5) 事故・災害の発生時は、人命救助を最優先に、慎重に速やかに適切に、行動をとります。

- (1) 装置の取扱いを習熟し、また、指揮命令系統、役割分担を明確にする。
 - (2) 消防、警察の出動を要請する。
 - 「小型移動式クレーン・玉掛け技能講習会」を受講し今後の索道整備時の安全作業に活用する。
 - 地元消防署との合同救助訓練を実施した。リフト・ゴンドラ・ロープウェイの救助装置の取扱い、通報・救助体制について再確認した。
- 他・合計100件の報告がありました。

(2) 社員教育の実施状況

教育訓練の社員教育実施細目を定め各事業所の実情に合わせて教育訓練計画をたてて実施しています。9事業所合わせて、延べ2,046名が教育訓練に参加しました。9事業所とも教育訓練計画をほぼ達成しました。2010年度は、特に採用時・現場初日でのミスを防ぐための教育を重点的に行い、合わせて昨年発生した「搬器からの子供の転落事故」の再発防止のため、掲示物の強化とお客さまの取り扱いについて社員教育を充実させました。安全管理は地道な業務ではありますが「何もない」ことが努力の証と信じて2011年度も引き続き邁進してまいります。

以下に教育の概要をまとめてご紹介しますが、各事業所の実情に合わせて実施しているものであり、全事業所共通でない内容も含まれています。

- 各地方運輸局主催「索道技術管理者研修会」を受講して、索道技術管理者等の職務、保安監査の実施状況、運転事故の概要、事故事例からの教訓、保守管理、安全・連絡体制、その他最新保安・技術情報等について、運輸局担当官等から講義を受けた内容を社内に展開し安全管理に役立てています。
- 索道メーカー等が主催する「テクニカルセミナー」等を受講して、電気・機械等の取扱いや点検・整備方法等について、専門知識を取得して社内に展開し、緊急時の速やかな対応や、正しい整備を実施して、安全な索道施設を提供できるように努めています。
- 社外で開催される「救急法短期講習会（心肺蘇生法・AED取扱い）」に出席して、救急知識を取得して事故発生時には、お客さまの人命救助を最優先した行動が、速やかに取れるように努めています。
- 社外で開催される「車両系建設機械・玉掛け技能講習会」に出席して、除雪機械の取扱いや整備時の荷物の吊り降ろし作業の正しい知識を取得して、労働災害の防止に努めています。
- 各地方の索道協会主催による研修会や講習会に出席して、新入社員・中堅社員の育成や基本・専門知識の向上に役立てています。
- 整備前には、全員で作業手順の確認と取扱い説明書を熟読し理解できない場合はメーカーに確認して、安全で正しい作業ができるように努めています。
- 毎年シーズン営業開始前には、全索道社員に対して安全作業と乗降客への取扱い等の基本的な内容について教育し、初歩的なミスによるトラブルが発生しないように努めています。
- シーズン中には社長、資産管理部ジェネラルマネジャー（安全統括管理者）、索道技術長（安全統括管理者補佐）、索道技術管理者が必要に応じて巡回して、運転や乗客への取扱い、設備や標示物等について質問があれば直接指導しています。

○索道施設が不時停止したときに速やかに対応できるよう全索道従業員および関係者による救助用具や予備原動・発電装置等の取扱い訓練を実施しています。

○その他、社内で開催された研修会・講習会等や安全対策委員会、索道安全会議そして日本鋼索交通協会や地方索道協会で開催される技術・安全委員会等に出席した情報を、社内に展開して知識向上と安全管理に努めています。

他・合計183件の報告がありました。



地方運輸局管内
索道技術管理者研修会
(妙高)



冬期臨時社員営業開始前
総合教育(かぐら)



冬期臨時社員受入時
の教育(万座)



地方索道協会
技術研修実習(妙高)



労災事故防止等
事業所講習会(苗場)



冬期臨時社員教育
(八海山)



冬期臨時社員教育
(焼額山)



索道技術管理員教育
(雫石)



冬期臨時社員受入時
の教育(軽井沢)



交通安全講習会
(軽井沢)



衛生管理講習会
(軽井沢)



冬期臨時社員説明会
(富良野)

(3) 会議・社内監査の実施状況

・ 各種会議の開催

経営トップが、社員からの要望や危険の芽を知らせる声等を把握できるように、本社に索道安全対策委員会を設置して4地区で開催される地区索道安全会議や9事業所で開催する事業所索道安全会議での情報を報告する仕組みを構築しています。2011年度も引き続き、それぞれの会議を開催してまいります。



各地区および各事業所の安全会議(写真左より 軽井沢、富良野、万座、妙高)

(1) 国土交通省による運輸安全マネジメント評価

2010年度における当社への運輸安全マネジメント評価はありませんでした。

(2) 国土交通省による保安監査および索道施設完成検査

2010年度は、富良野スキー場で12月6日から7日までの2日間、北海道運輸局による保安監査が実施されました。

現場で準備した関係書類の審査や、営業運転中の索道施設および係員の業務状況を確認していただきました。監査の結果、索道施設に安全対策のための一部変更があったので、所定の手続きを取ることで、基準適合確認書の記載内容についてご指導をいただきました。これからもコンプライアンスを遵守し安全管理体制を継続してまいります。

また、北陸信越運輸局鉄道部による新設リフトの索道施設完成検査も行なわれました。



北海道運輸局による保安監査



北陸信越運輸局による索道施設完成検査



安全確保のための措置

索道施設が不時停止したときやお客さまが怪我等をされた場合、私たちは人命救助を最優先に行動します。速やかに適切な行動をとるためには日頃から緊急時を想定した訓練が不可欠です。各事業所の施設の実情に合わせた索道施設の救助訓練や消防署・警察署との連携した合同訓練、予備原動装置の切換え訓練、お客さまが怪我等をされた場合のパトロール応急処置と救急車の要請等の連携、気象による災害（地震、雪崩、台風）等を想定した訓練は欠かせません。また、適切に実践するためには細則や要領、マニュアルの整備と基礎教育も重要です。2010年度は、9事業所において救助訓練を63回、消防署等との合同訓練を3回、雪崩を想定した訓練を2回、応急手当（心肺蘇生法・AED取扱い等）研修を1回実施いたしました。2011年度も技術の向上と安全を確保するために引き続き実施してまいります。



消防署との合同救助訓練（写真左より 雫石・軽井沢・焼額山）



救急法講習会（雫石）

リフトの予備原動機連結訓練（苗場）



リフトの非常制動機切替訓練（かぐら）

リフトの予備発電機取扱い訓練（万座）

リフトの救助用具取扱講義（焼額山）



リフトの救助訓練（万座）

リフトの予備原動機取扱い訓練（軽井沢）

リフトの救助訓練（みつまた・田代）



リフトの救助訓練（八海山）

リフトの救助訓練（富良野）

ロープウェイの救助訓練（八海山）

ゴンドラの救助訓練（妙高）

来場されたお客さまに安全で快適な索道施設をご利用いただくためには、日頃からの点検整備や乗客への安全で適切な取扱いが最も重要です。シーズン中は、法定検査・点検や社内巡回点検、消耗部品の交換や潤滑箇所の給油作業、乗降客の監視や誘導、悪天候時の安全な運行管理等を行なっています。また、シーズンオフには営業中実施できない機械や電気設備等の解体整備や交換作業を行なっています。合わせて、測定機器による判定や、外部専門機関の設備診断を活用して、不良箇所を見つけだして整備を行なっています。当社の全スキー場で実施した2010年度の整備・診断等の修繕費は、総額で約5億3千万円でした。2011年度につきましても、お客さまに安全で安心な索道施設を提供できるよう、引き続き索道施設の安全管理に努めてまいります。主な修繕実績の概要を、下記に紹介いたします。

○富良野スキー場

山の地域でも、自然環境（豪雨・地震等）の影響により、地盤が変動することがあります。今回、リフト線路のセンターに狂いが発生したので、今後の状況を踏まえて基礎を打ち替ええないで移動する工法を選択しました。その結果、修繕費も大幅に削減することができました。



基礎の掘り出し作業を開始



油圧ジャッキで基礎を山側や横へ移動



排水対策で暗渠パイプを増設



基礎周りの土を埋め戻して工事を終了

○六日町八海山スキー場

ロープウェイの運転時間の経過により原動設備関係の老朽化が進んだので、夏・冬通して「安全・安心」な運行をするために原動滑車・減速機・搬器走行装置等を整備しました。



整備前の段取り作業



原動滑車軸受の交換



減速機オーバーホールのため搬出



搬器走行装置の点検

○軽井沢プリンスホテルスキー場

索道施設を運転するのに欠かせないのが電気設備です。機械と同様、長年使用することにより、部品の摩耗や経年劣化が進み、トラブルの可能性が高まったので、電動機のオーバーホールと制御盤・通信ケーブルの更新を行ないました。また、原動滑車軸の「キー」の交換も行ないました。



電動機解体準備



制御盤の更新



保安通信ケーブルの更新



原動滑車「キー」交換

○妙高杉ノ原スキー場

ゴンドラの営業運転時間の経過により、ワイヤロープの摩耗・経年劣化が進んだので、安全な運行を維持するために交換しました。



ワイヤロープの搬入



旧ワイヤロープを新品と交換のための引き回し作業



新しいワイヤロープのジョイント作業



ワイヤロープのジョイント終了後、線路に戻し工事完了

3

お客さまへのお願い

リフトをご利用の際は、下記の事項をお守りいただきますようお願いいたします。なお、この内容を記載した看板をスキー場に設置しておりますので、入場時をご覧ください。

リフト利用者みなさまへ

あなたの行動は、あなたと他の利用者全員の安全に関わっています。リフト利用にあたっては、責任と義務がともないません。次のことを守ってください。

(乗車時)

1. リフト利用に不安な方は、係員へ申し出てください。
2. 子供どうしてリフトに乗るときは、係員に声をかけてください。
3. 「のりば」の表示位置でスキー・スノーボードを正しく前に向けて待機してください。
4. 乗れなかったら、すぐにリフトから離れてください。
5. スキーヤーは、ストックがとなりの人の迷惑にならないように注意してください。
6. リュック等はヒザに乗せ、衣服等のヒモにも注意してください。
7. ボーダーは、流れ止めをつけ、ハイバックをたたんでください。

(乗車中)

1. 安全バーを下ろし、深く腰をかけてください。
2. 乗っているときは、次のことを行わないでください。
 - (1) イスを揺らすこと。
 - (2) イスから飛び降りること。
 - (3) イスの上でふざけたり、後ろを向いたりすること。
 - (4) ストック等で柱などにさわること。

3. リフトが止まっても飛び降りないでください。

(降車時)

1. 「おりば」が近づいたら降りる準備をし、降りた後はまっすぐ進んでください。
2. 降りられなかったら、そのままイスに座っててください。停止します。

(お願い)

1. 未就学児は保護者同伴での乗車をお願いします。

係員の指示に従ってください。

その他の活動

1

お客さまとの交流

各地のスキー場では、お客さまとの各種イベント等を開催しています。（ブログより紹介）



スキー場オープンで豚汁を提供（かぐら 田代）



ウインターフェスティバル（軽井沢）



クリスマスプレゼント（焼額山）



餅つき大会（雫石）



かまくら祭り（苗場）



宝探し大会（妙高）



子ども応援プロジェクトパトロール体験（万座）



雪崩対策スキー圧雪（富良野）



登山の日（八海山）



スノーフェスティバル（妙高）



シニア倶楽部基礎スキーレッスン会（軽井沢）



ちびっ子ゲーム大会（富良野）



ジャンケン大会（妙高）



かまくら造り体験（苗場）



「ファーストトラック」朝日に向かって「ゴー」（焼額山）



スノーボードキャンプ（かぐら）



スキー発祥100周年にちなんで各スキー場のイベントに参加した「レルヒ少佐」ご苦労さまでした。（苗場）

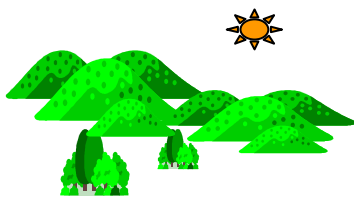


各地のスキー場では、お客さまに良好な自然環境でのスノースポーツを満喫していただくために、環境保全に力を注いでおります。シーズン中、シーズン後に各索道線路下やコース・ゲレンデ、駐車場等の清掃・整備を実施しました。



廃止したスキー場は関係法令に基づき現状復旧と植栽を施し地主に返地するべく準備をしております。

6スキー場 総面積839,881㎡に181,285本の植栽を行いました。



植栽駐車場(千畑)



自然に育った松(千畑)



リフト敷地(千畑)



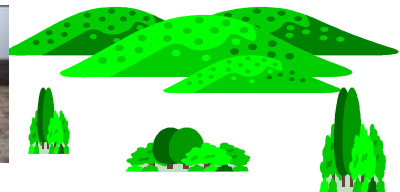
植栽ゲレンデ(森吉)



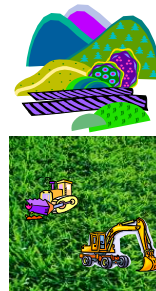
植栽ゲレンデ(深川)



駐車場植栽(津別)



廃止した索道施設は、解体撤去後、廃棄物はリサイクル法に従って処理し、整地・緑化して現状復旧に努めております。



今年度も苗場-田代ゴンドラ、田代ロープウェー、六日町八海山ロープウェー、富良野ロープウェーの夏や秋の期間営業を行ないます。また、11月中旬の軽井沢プリンスホテルスキー場オープンをかわきりに降雪状況により残りの8スキー場をオープンしてまいります。2011年度もお客さまに安全・安心な施設を提供し、お客さまに「来て良かった」と喜んでいただけるスキー場運営に努力してまいります。

これからもご愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。詳しくはプリンスホテルのホームページをご覧ください。

Prince Snow Resort

ホームページアドレス <http://ski.princehotels.co.jp/>



スキー場夏期営業（山頂からの展望は絶景です）

お客さまに「安全・安心」と「くつろぎ」をおとどけるためにグレンデも索道整備もホテルのおもてなしも万全です。

おわりに

私たちは、施設を適正に管理し、索道を安全に運行することによって、スキー場をご利用のお客さまに安心をお届けしたいと考えています。来シーズンも安全管理体制をさらに強化し安全を追求してまいります。今後ともプリンスホテル（プリンス・スノーリゾート）をご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

- | | | |
|--------------|-------------|-----------------|
| ○苗場スキー場 | ○かぐらスキー場 | ○軽井沢プリンスホテルスキー場 |
| ○志賀高原焼額山スキー場 | ○妙高杉ノ原スキー場 | ○富良野スキー場 |
| ○万座温泉スキー場 | ○六日町八海山スキー場 | ○雫石スキー場 |



【安全報告書に関する問い合わせ先】

株式会社プリンスホテル
 資産管理部索道管理チーム
 東京都豊島区東池袋3-1-5
 TEL 03-5928-1125
 FAX 03-5928-1505